

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 鞆ヶ谷 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
本市	16.56	20.49	33.51	42.17	52.49	9.39	153.34	22.91	54.52

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59
本市	16.49	19.55	38.14	40.49	42.02	9.64	147.47	13.79	56.34

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

質問紙調査の結果、本校の結果は大きくは全国・市の平均値と変わらない。その中で全国・市の平均値と異なる項目としては、生活習慣に関する項目では、本校児童は睡眠時間が少ない傾向がある。また、1日あたりのテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどを利用する時間は全国・市の平均値と比べると2時間未満の割合が多かった。運動習慣に関する項目では、体育の授業の初めに授業の目標が示されていると答えた児童が市の平均値より大きく上回っていた。本年度の鞆ヶ谷小学校の取組において活動目標をもたせることを意識したため、結果が出たと思われる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある。」の質問では、当てはまると回答した児童が男女ともに全国・市の平均を下回っていた。また、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。」の質問では、当てはまると回答した女子児童が全国・市の平均値に比べて低かった。このことから、積極的に挑戦させ、やり遂げた時の達成感を味わわせるような取組を進める必要がある。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

全校児童の取組として、1学期に「新体力テストチャレンジウィーク」、2学期に「なわとび集会に向けた練習タイム」、3学期に「さやっ子マラソンに向けた元気タイム」を計画し、委員会児童や全教職員協力のもと実施することができた。また、多様な動きにつながる9つの(北九州市体力向上プログラム)運動を拡大紙にして体育館に掲示し、授業の導入場面で活用した。今後も各学期に全校で取り組む活動を実施してい